

2.3.5 大津・湖南地域(大津市南部、草津市、守山市、栗東市、野洲市、近江八幡市)

1) 移動の状況

大津・湖南地域は草津市、近江八幡市を中心に各市内での流動が多く、市域をまたぐ流動としては草津市を起点としたものや、京阪神との流動が多い傾向があります。また、発生集中量が多いエリアは、鉄道駅を中心に一部郊外部の大学等集積地やレクリエーション施設集積地にも存在しています。

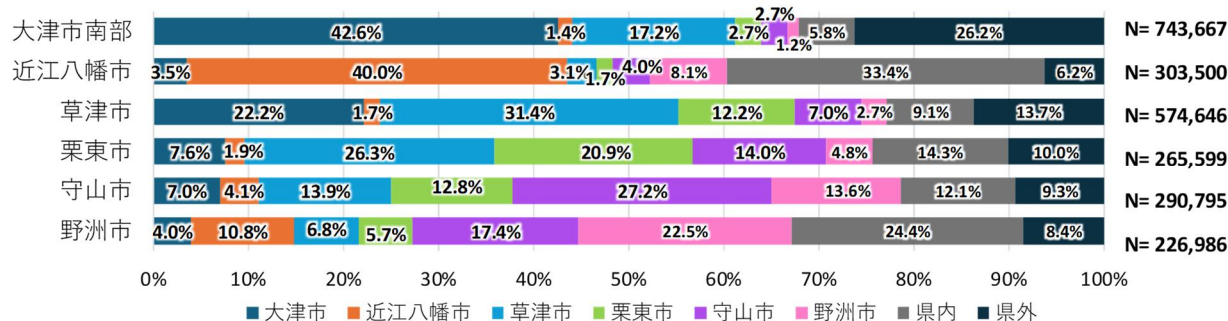
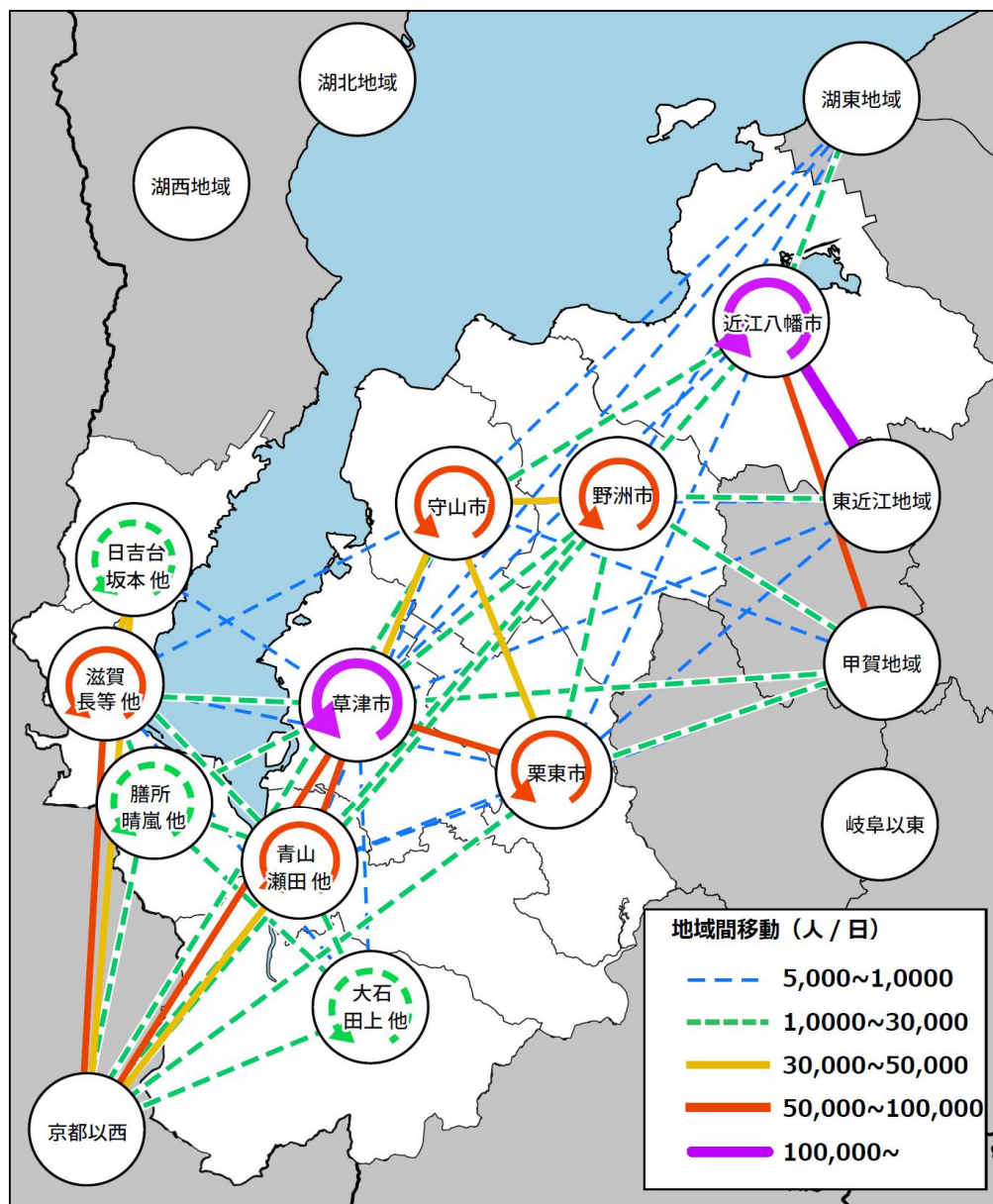


図 2.64 大津・湖南地域の流動(出典：全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

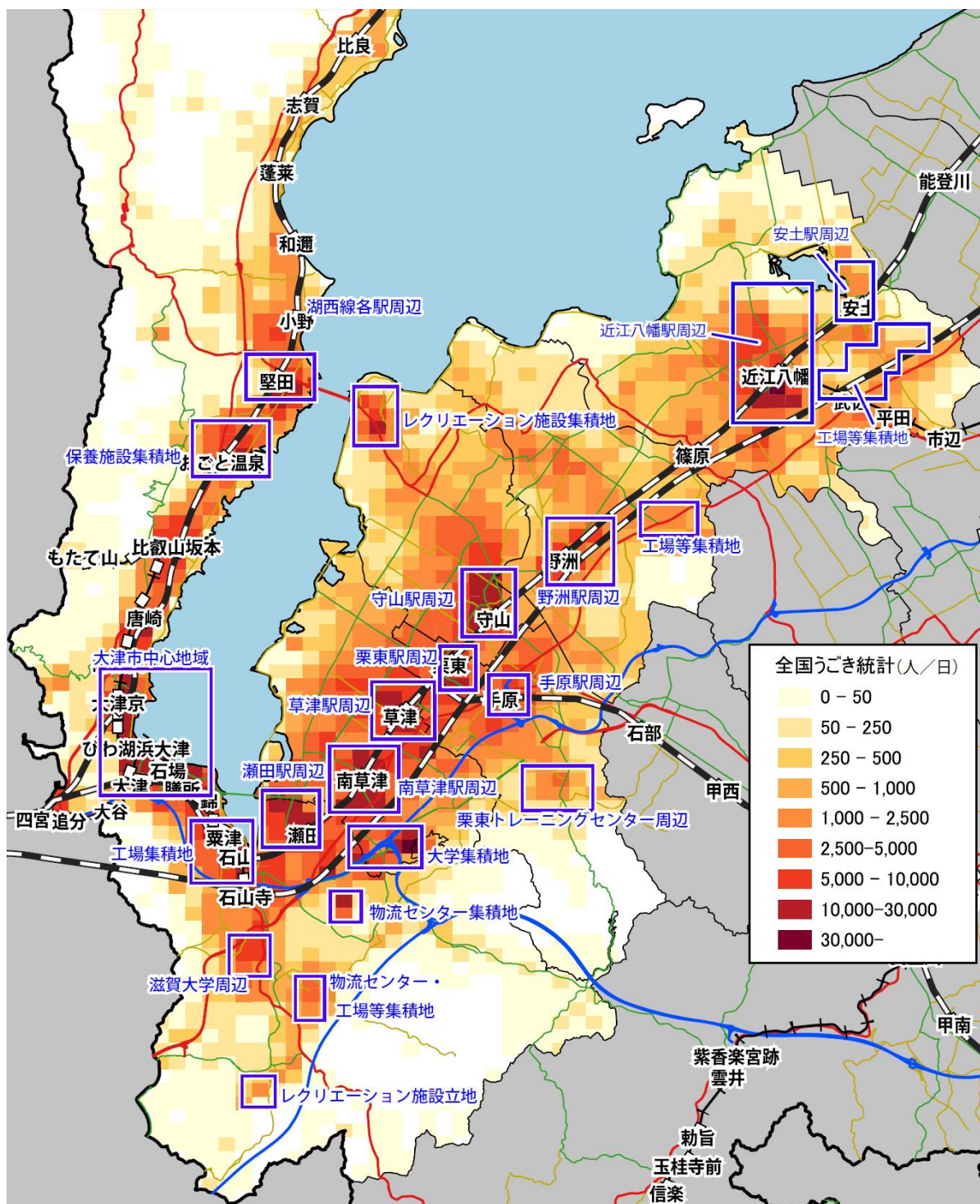


図 2.65 大津・湖南地域の発生集中量(出典:全国うごき統計令和 6 年(2024 年)4 月平日平均)

2) 交通の状況

大津・湖南地域には、滋賀県北部、京阪神へとつなぐ広域的な移動の軸となる鉄道路線としてＪＲ琵琶湖線、ＪＲ湖西線、京阪京津線、京阪石山坂本線が存在しています。

主に通勤・通学を支える路線としては下田線（三雲駅ルート）、66A 系統（大津～比叡平）、56・56A 系統（比叡平～三条京阪）が都市部と住宅地をつないでいるほか、野洲アウトレット線・服部線・京阪バス４系統（石山駅～大石小学校）が存在しています。

また、琵琶湖の東側と西側を結ぶ湖岸の連絡路線として、堅田駅-守山駅間をつなぐ琵琶湖大橋線・木の浜線や、草津駅-大津駅-びわ湖浜大津駅間を結ぶ近江大橋線が存在しています。これら移動の軸を、その他のコミュニティバスやデマンド交通が細やかな移動を面的に支える状況です。

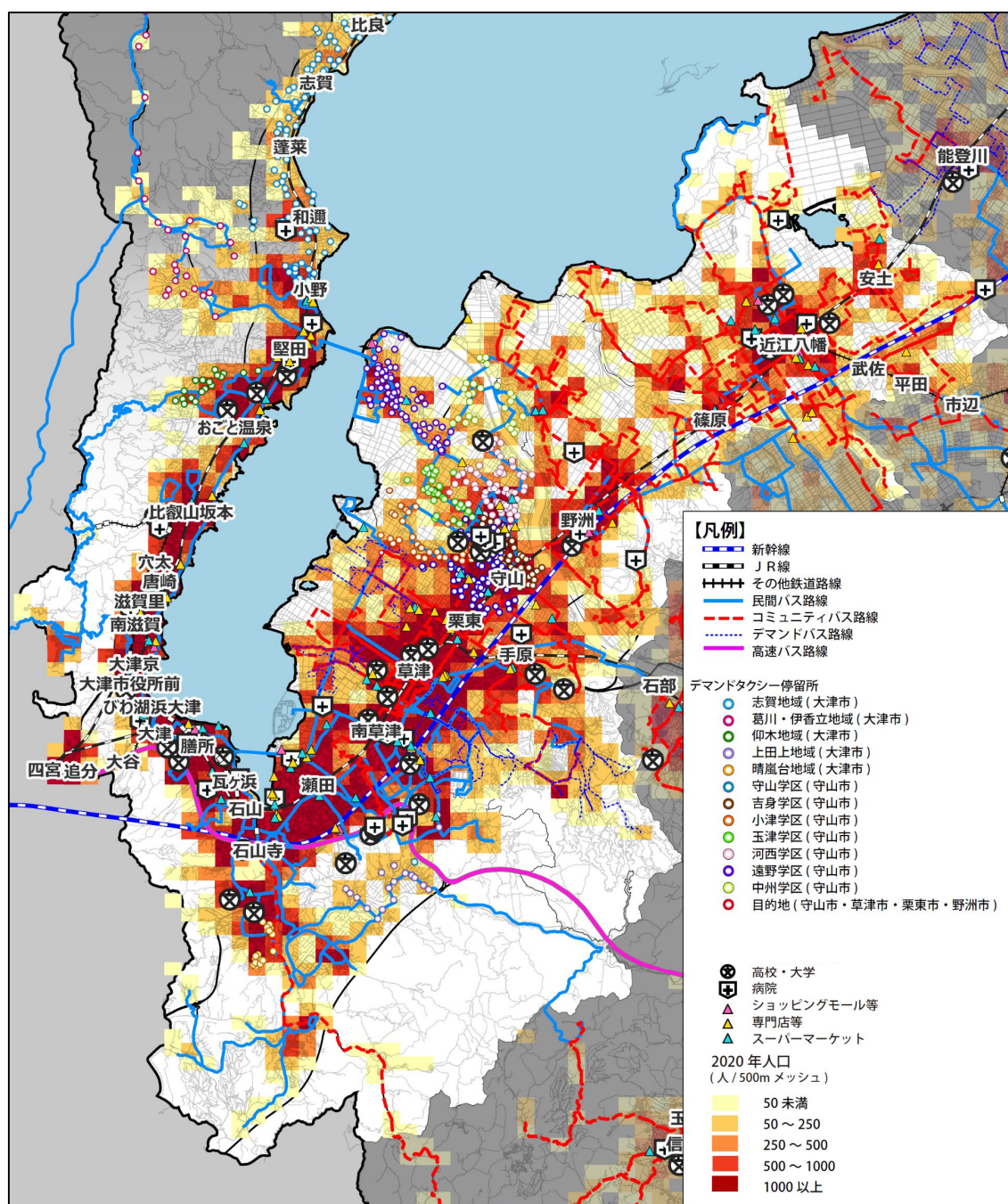


図 2.66 大津・湖南地域の地域交通ネットワーク

しかし、大津・湖南地域を運行するバス路線の運行頻度は高くありません。鉄道は充足していますが、バスについては、沿線の人口密度に関わらず、路線や地域ごとに運行頻度に大きな差があります。10分～15分に1本程度の高頻度で運行している路線も多くみられる反面、数時間に1本しか運行していない路線もあります。

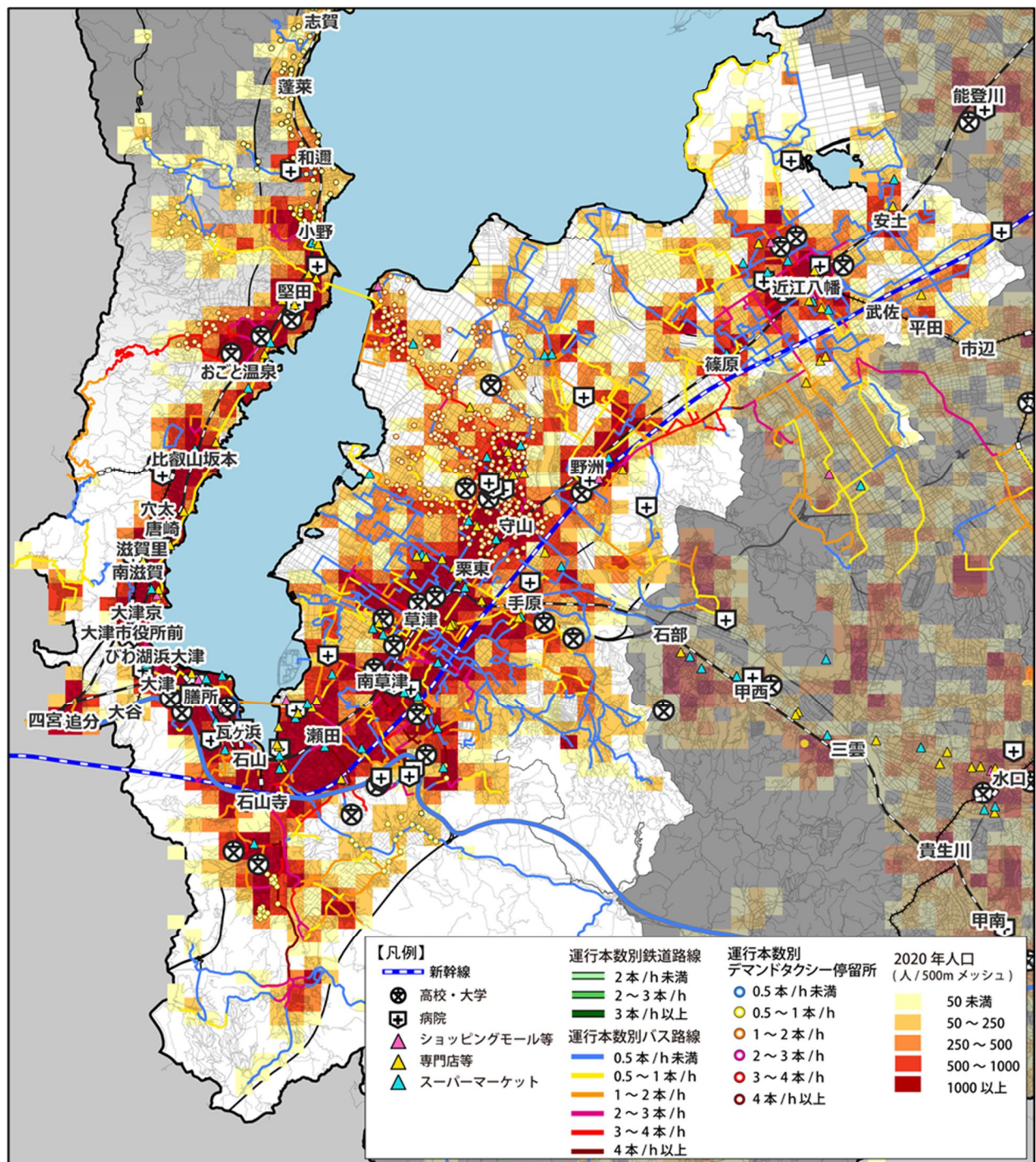


図 2.67 大津・湖南地域における地域交通の運行頻度(平日)

夜間では、21 時以降も運行しているバス路線が複数見られ、草津市のデマンド交通は 20 時まで運行しているなど、全体的に運行終了時刻が遅く、夜間の移動手段は比較的充足していると言えます。また、タクシーの運行台数も県内他地域の数倍と多く、夜間の移動を含め地域交通での移動が可能な状況にあります。

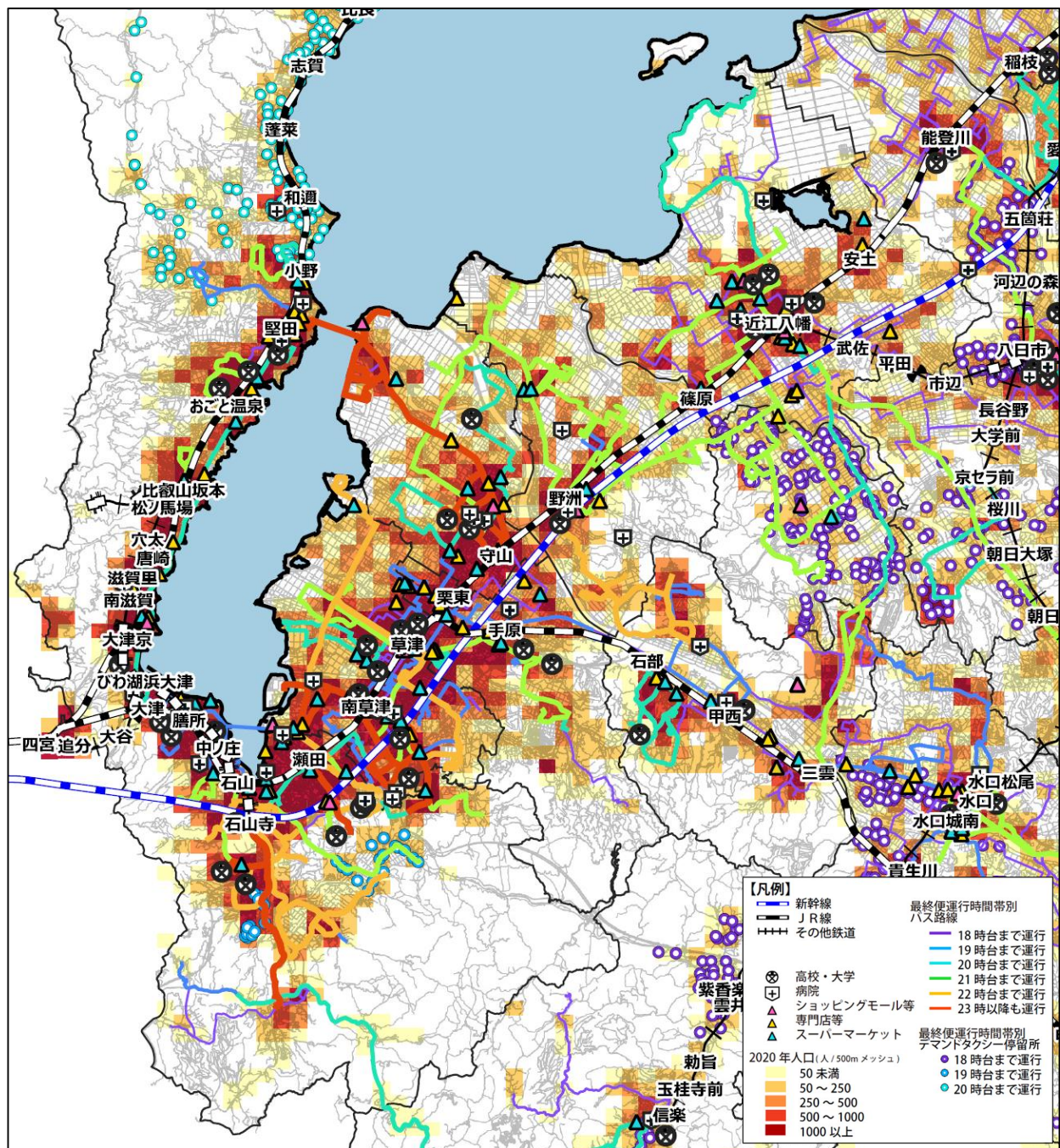


図 2.68 大津・湖南地域における夜間の地域交通運行状況

(1) 分野ごとに見る交通の状況

a) 病院

i) 済生会滋賀県病院

済生会滋賀県病院は、草津伊勢落線等※のバス路線で手原駅、守山駅と接続しており、栗東市の人口における83%が30分以内にアクセスできます（図 2.69）。

※草津伊勢落線、葉山循環線、治田金勝線、宅屋線

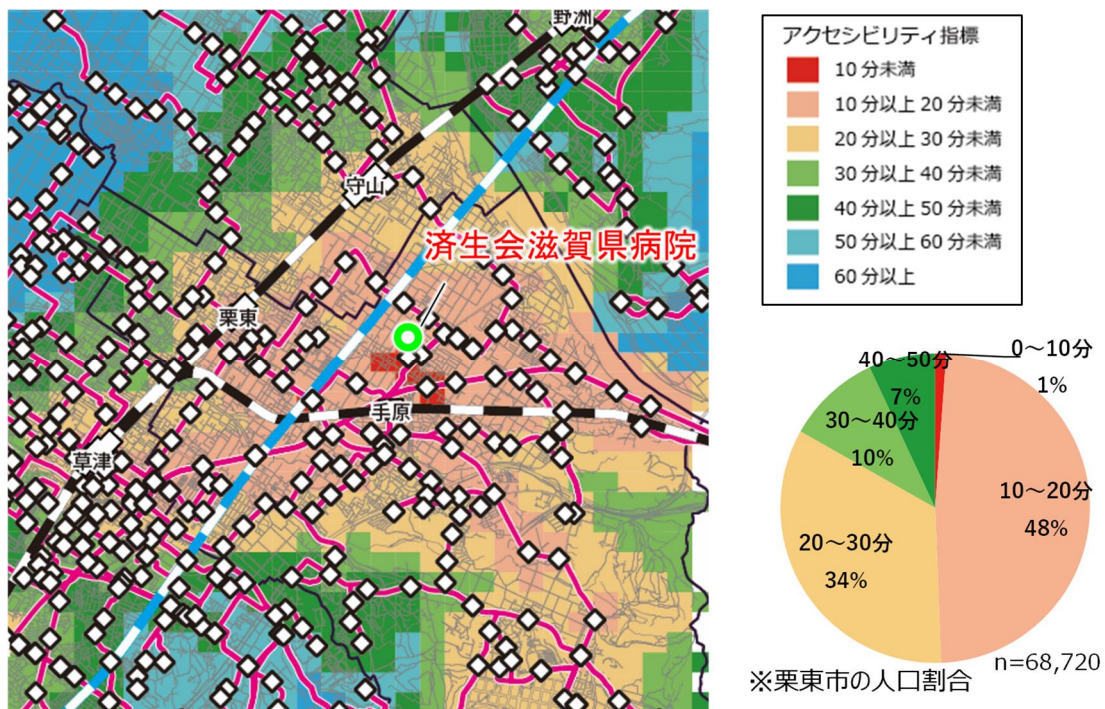


図 2.69 済生会滋賀県病院へのアクセシビリティ

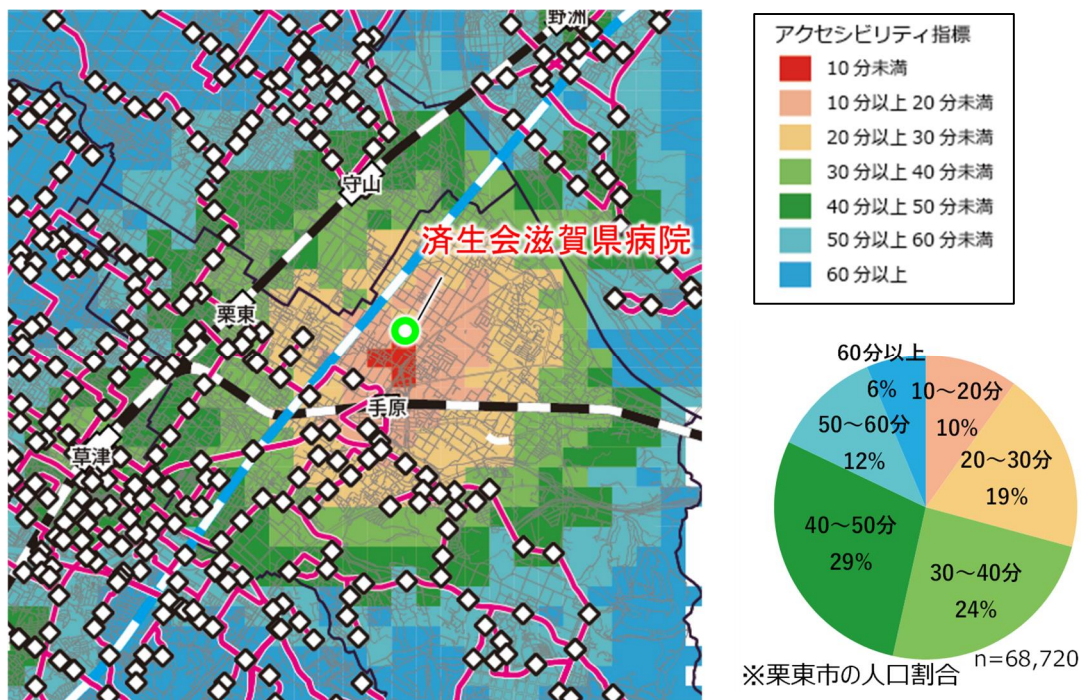


図 2.70 草津伊勢落線等が利用できない場合における済生会滋賀県病院へのアクセシビリティ

ii) 滋賀県立総合病院

滋賀県立総合病院は小浜線等※によって守山駅と接続しています。小浜線等が存在することで、守山市の人口における 73% が 30 分以内にアクセスできます（図 2.71）。

※小浜線、木の浜線、市民ホール線、琵琶湖大橋線、大宝循環線

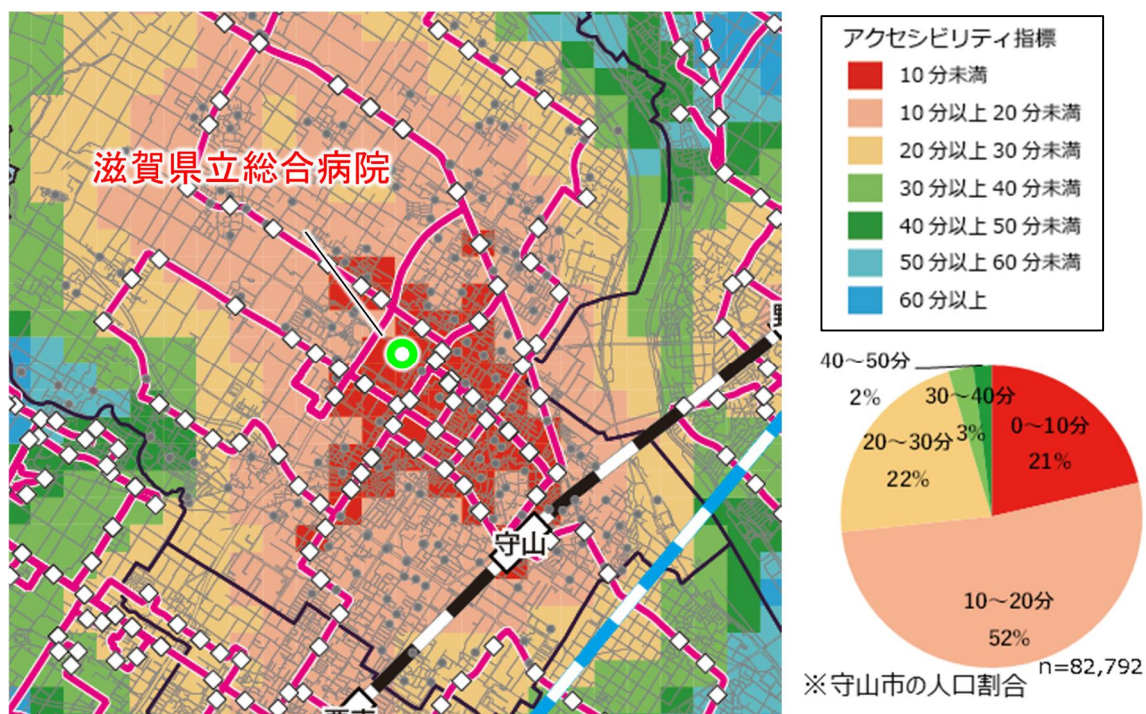


図 2.71 滋賀県立総合病院へのアクセシビリティ

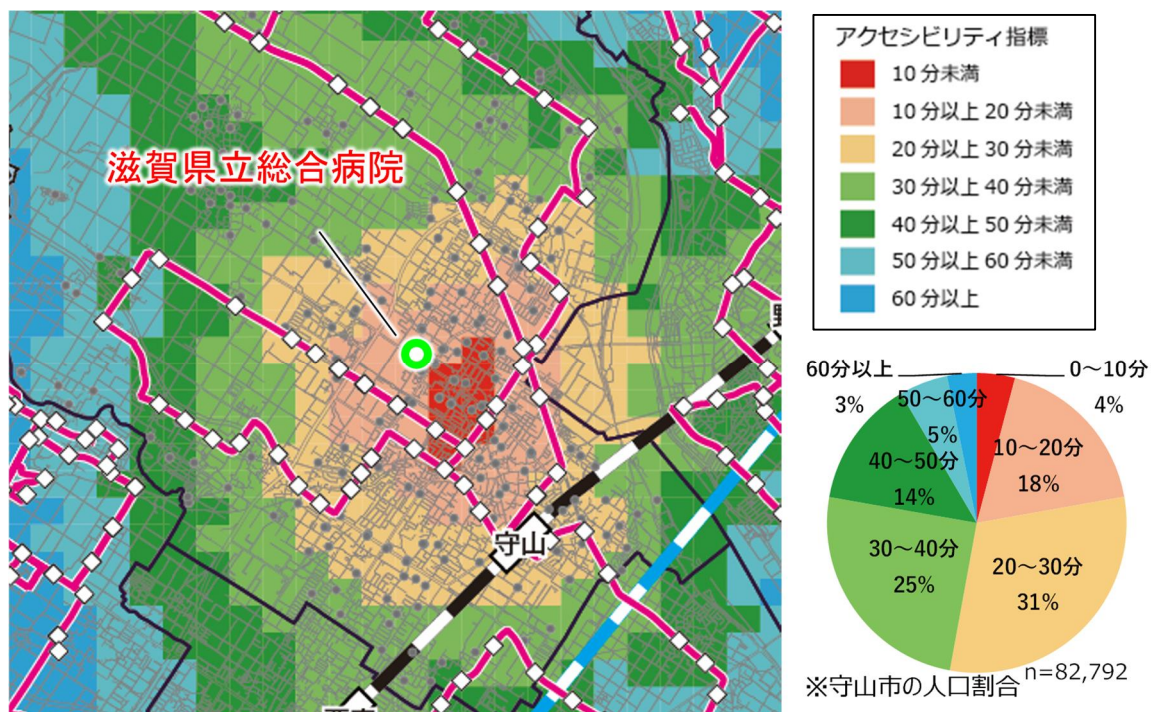


図 2.72 小浜線等が利用できない場合における滋賀県立総合病院へのアクセシビリティ

b) 大学

i) 滋賀医科大学

滋賀医科大学はバスにより草津駅、南草津駅、瀬田駅等と接続しています。草津駅医大線等※が存在することで、草津市の人口における 86%が 60 分以内にアクセス可能なほか、J R琵琶湖線を利用する他府県からの学生が駅から 30 分未満でアクセス可能な状況です（図 2.73 図 2.73）。

※草津駅医大線、南草津飛島線、南草津医大線、南草津駅～養護学校線

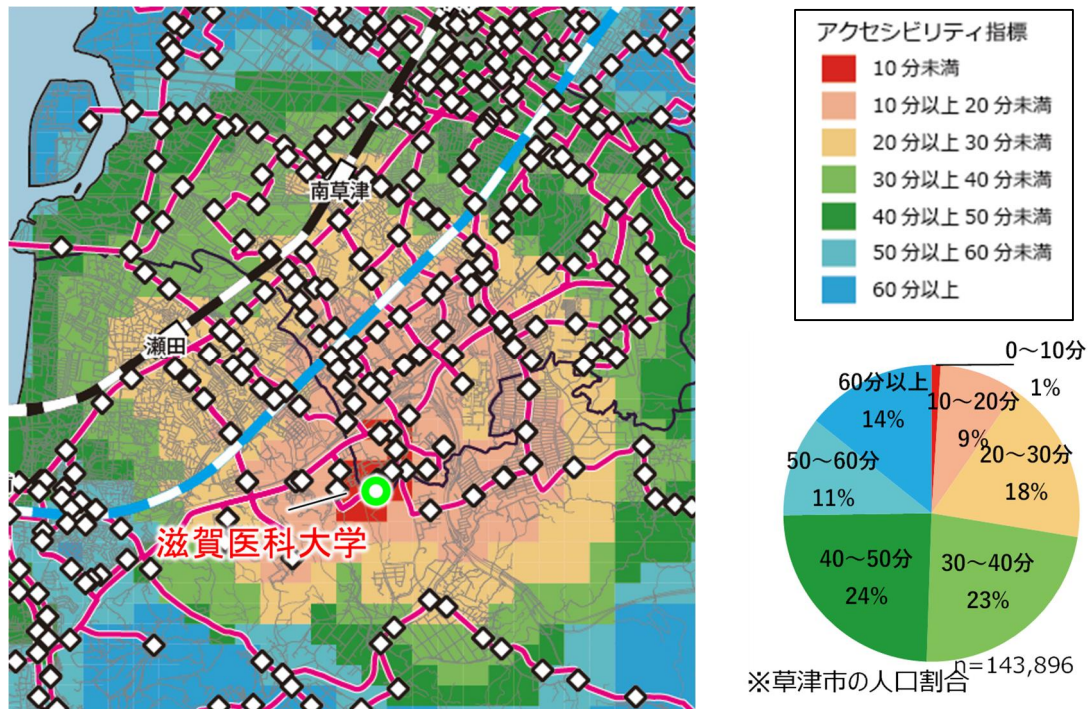


図 2.73 滋賀医科大学へのアクセシビリティ

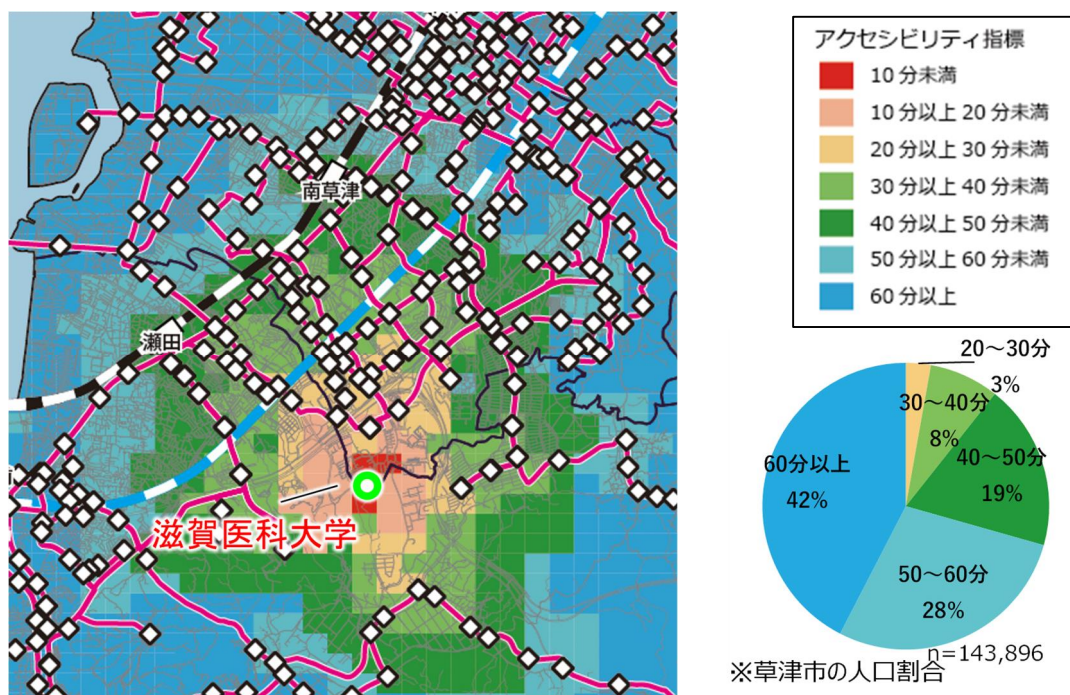


図 2.74 草津駅医大線等が利用できない場合における滋賀医科大学へのアクセシビリティ

ii) 立命館大学

立命館大学は主に南草津駅、瀬田駅等と接続しています。南草津飛島線等※が存在することで、草津市の人口における 88%が 60 分以内にアクセス可能なほか、J R 琵琶湖線を利用する他府県からの学生が駅から 30 分未満でアクセス可能な状況です（図 2.75）

※南草津飛島線、南草津立命線、UCD—ARROW 循環線、草津立命線、草津医大線

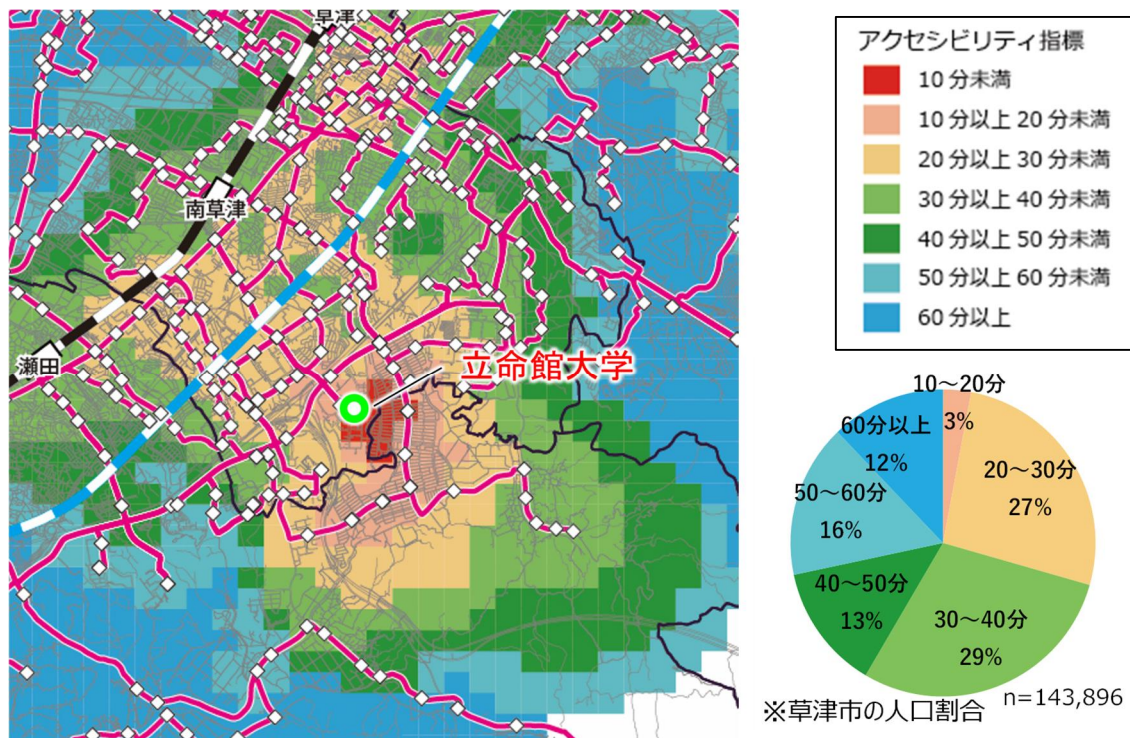


図 2.75 立命館大学へのアクセシビリティ

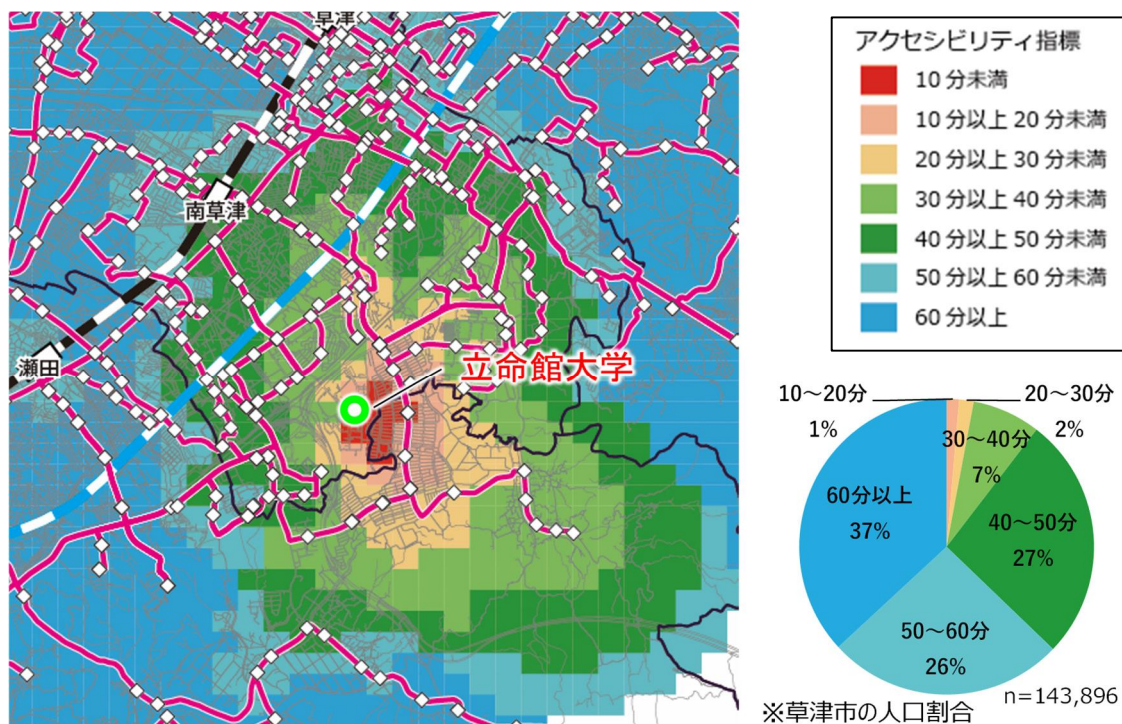


図 2.76 南草津飛島線等が利用できない場合における立命館大学へのアクセシビリティ

c) 商業施設

i) イオンモール草津

イオンモール草津はバス路線で南草津駅、瀬田駅、石山駅と接続しています。イオンモール瀬田線等※が存在することで、草津市の人口における 93%が 60 分以内にアクセス可能な状況です（図 2.77）。

※イオンモール瀬田線、イオンモール南草津線、近江大橋線、浜街道線

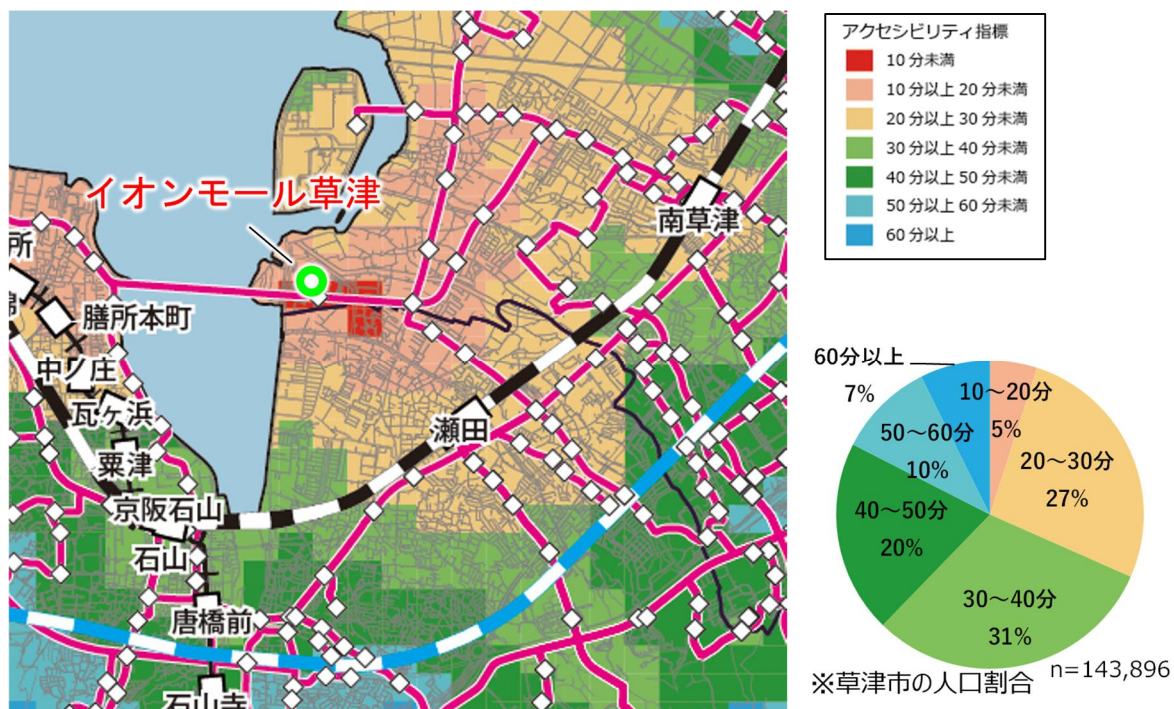


図 2.77 イオンモール草津へのアクセシビリティ

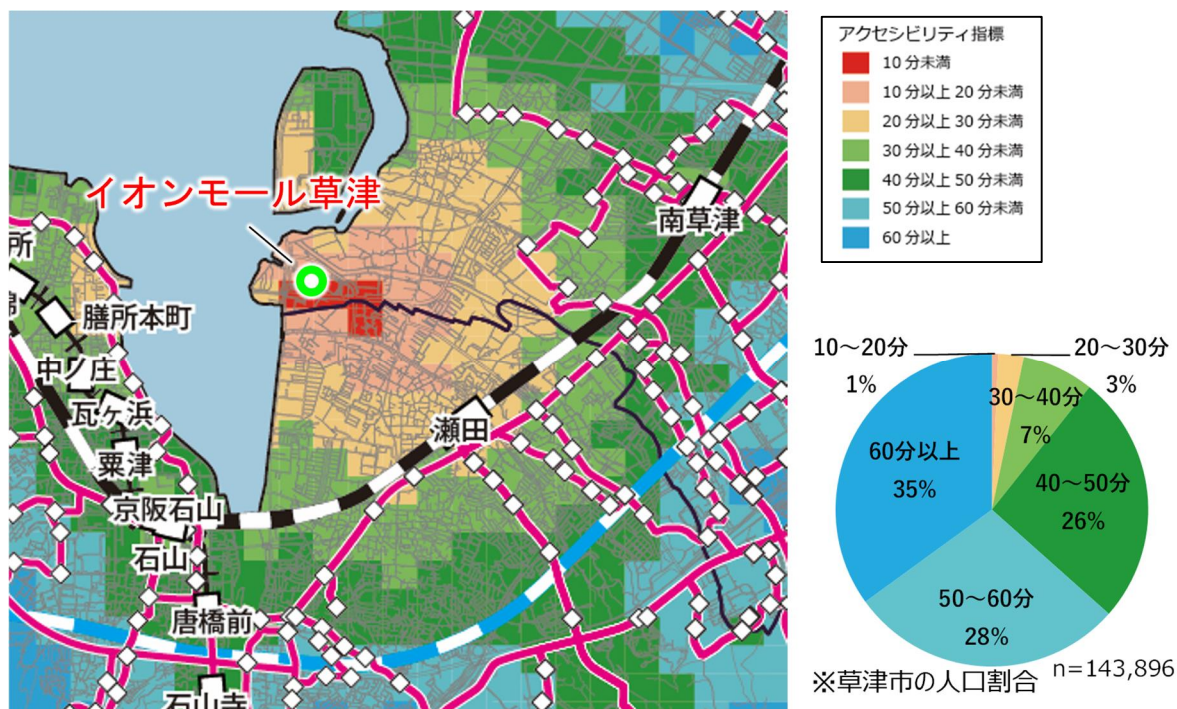


図 2.78 イオンモール瀬田線等が利用できない場合におけるイオンモール草津へのアクセシビリティ

2.3.6 湖西地域(大津市北部、高島市)

1) 移動の状況

湖西地域は大津市北部（小松・木戸・和邇・葛川・真野・堅田等）内の流動や、県内他地域との流動が多く、高島市は大津市との流動が多い傾向があります。また、発生集中量が多いエリアは、鉄道駅を中心に一部郊外部の工場等集積地にも存在しています。

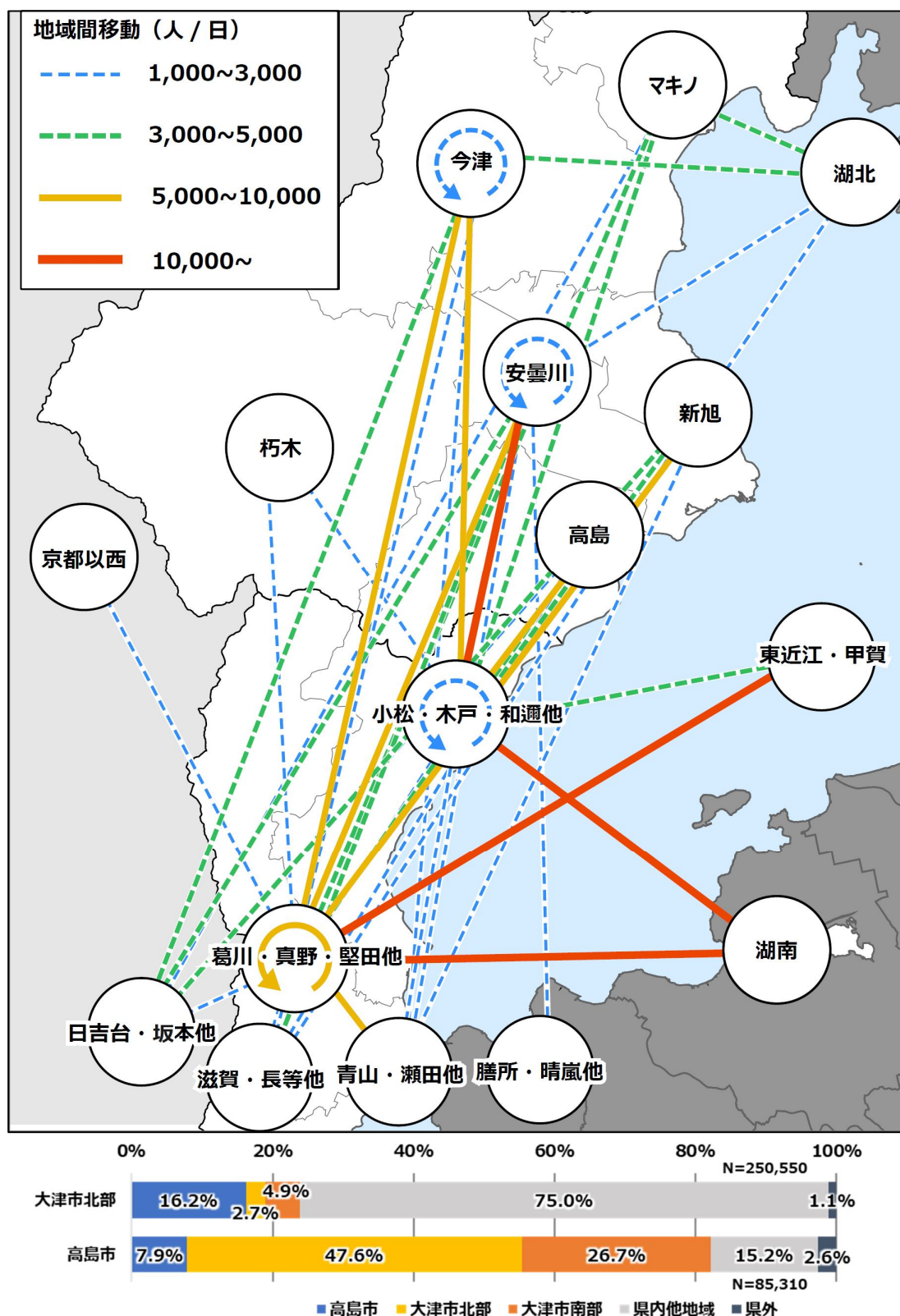


図 2.79 湖西地域の流動(出典:全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

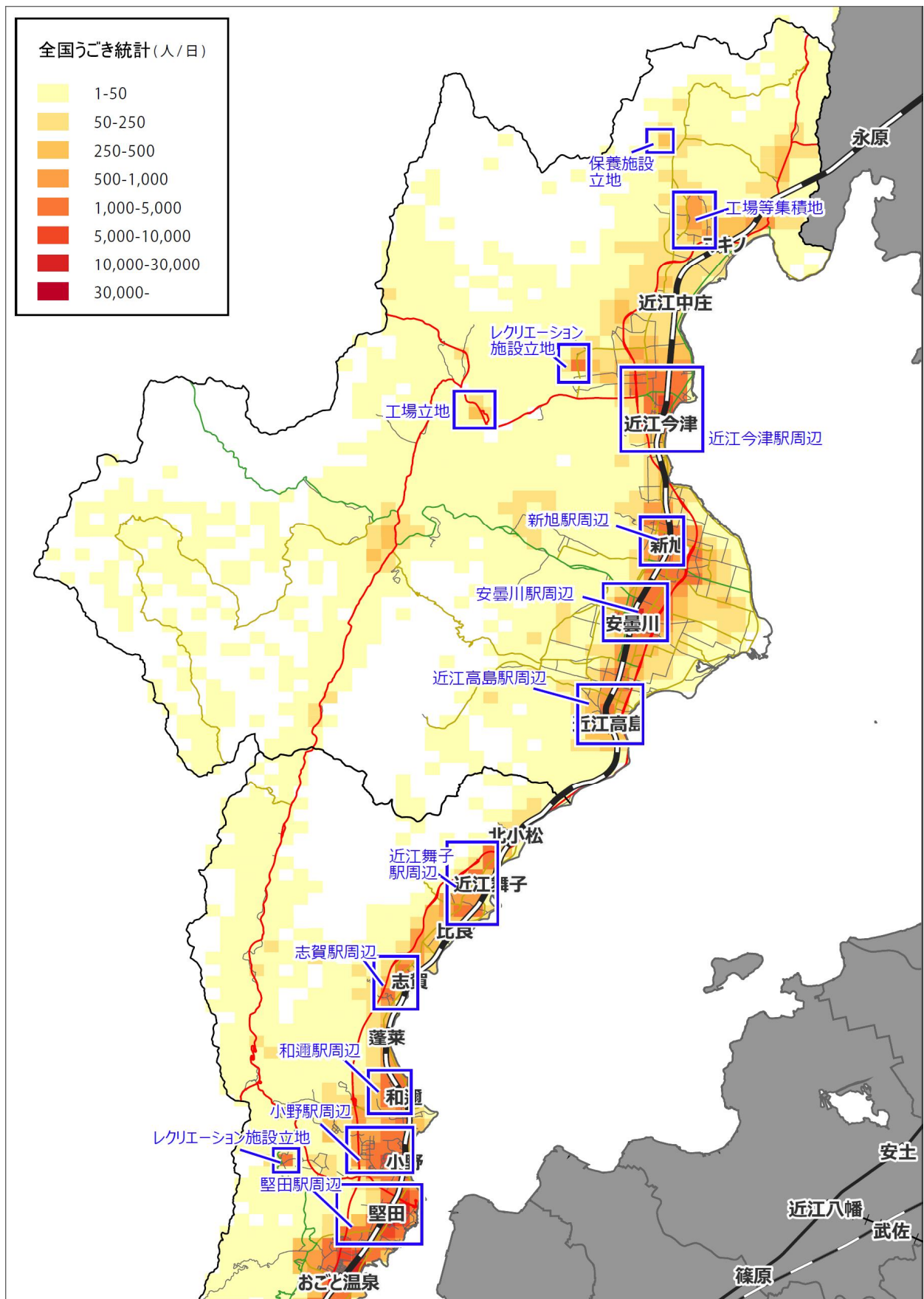


図 2.80 湖西地域の発生集中量(出典:全国うごき統計令和6年(2024年)4月平日平均)

2) 交通の状況

湖西地域には、滋賀県内、京阪神、北陸へとつなぐ広域的な移動の軸となる鉄道路線としてJ R湖西線が存在しています。湖西地域内の移動については、バスで安曇川駅-朽木地域間をつなぐ朽木線、近江今津駅-小浜駅(福井県)間をつなぐ若江線が移動の軸として存在し、その他のコミュニティバスやデマンド交通が細やかな移動を面的に支えています。

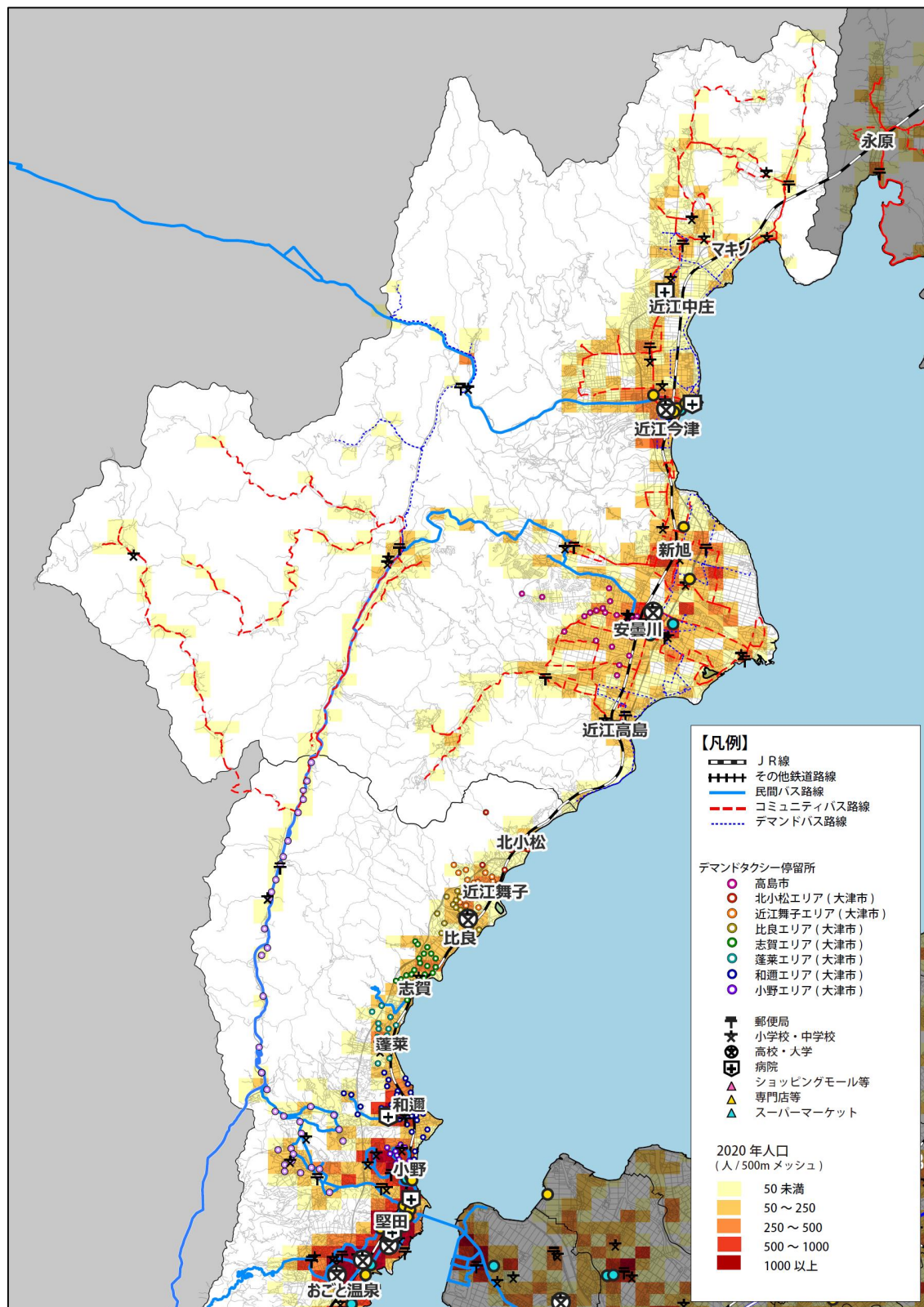


図 2.81 湖西地域の地域交通ネットワーク

しかし、湖西地域を運行する地域交通の運行頻度は高くなく、鉄道路線であっても、J R湖西線の平日昼間の平均的な運行頻度は1時間に1～3本程度です。さらに、J R湖西線は強風の影響により運転を見合わせることも多々あります。

また、バス路線についてはさらに運行頻度が少なく、1時間に1本、またはそれ以下の運行頻度の路線がほとんどを占めています。

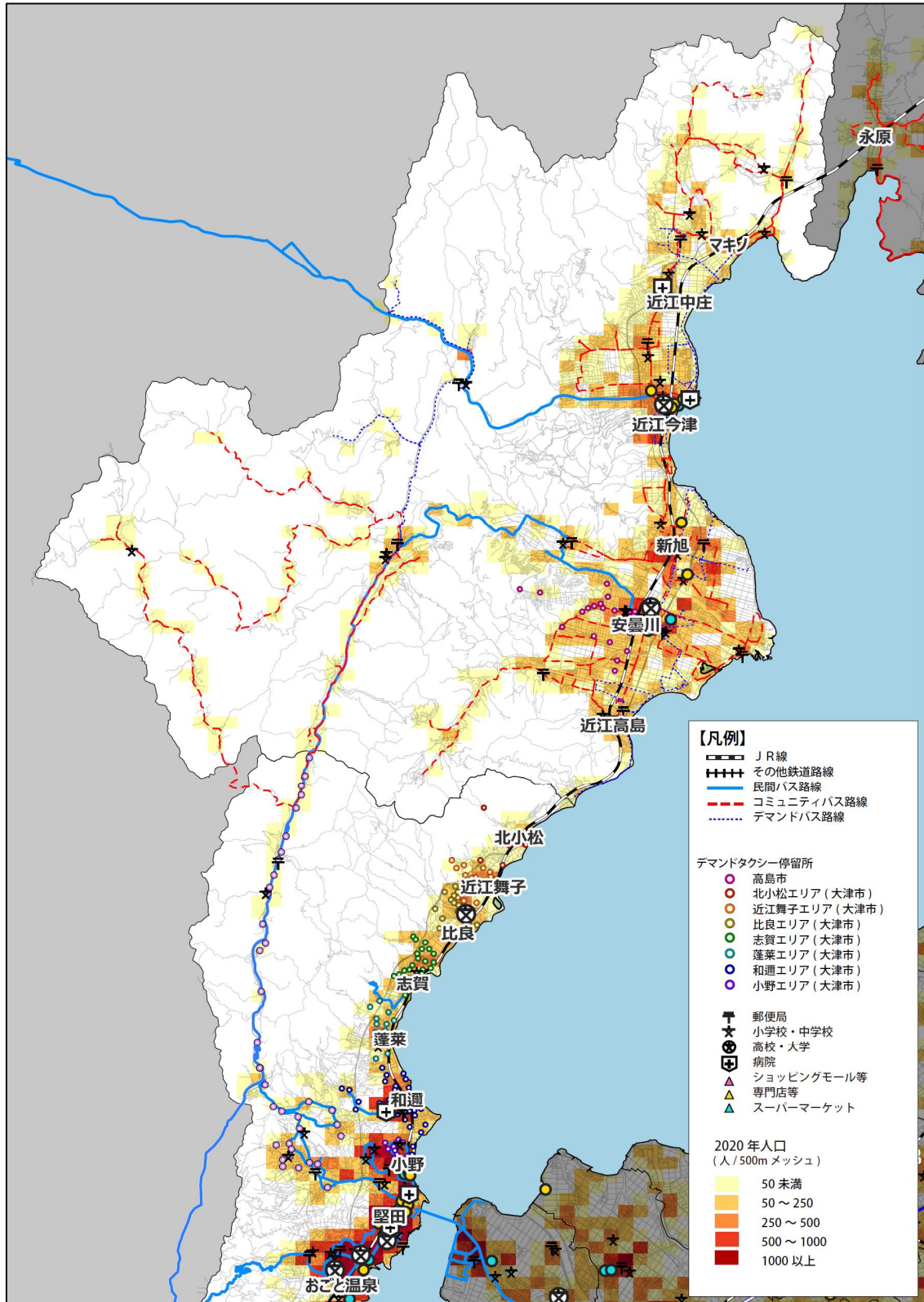


図 2.82 湖西地域における地域交通の運行頻度(平日)

特に夜間ではＪＲ湖西線はおおむね 23 時台まで運行していますが、ほとんどのバス路線は平日であっても 20 時までに運行を終了しており、最寄り駅まで戻った先の移動手段がない状況にあります。19 時以前に運行を終了する路線の中には、市街地を運行する路線も存在します。

そのためほとんどの地域において、夜間の移動を地域交通で行うことは難しい状況で、タクシーの運行台数も多くないため、地域全体として夜間の移動を自家用車や送迎に依存する状況にあります。

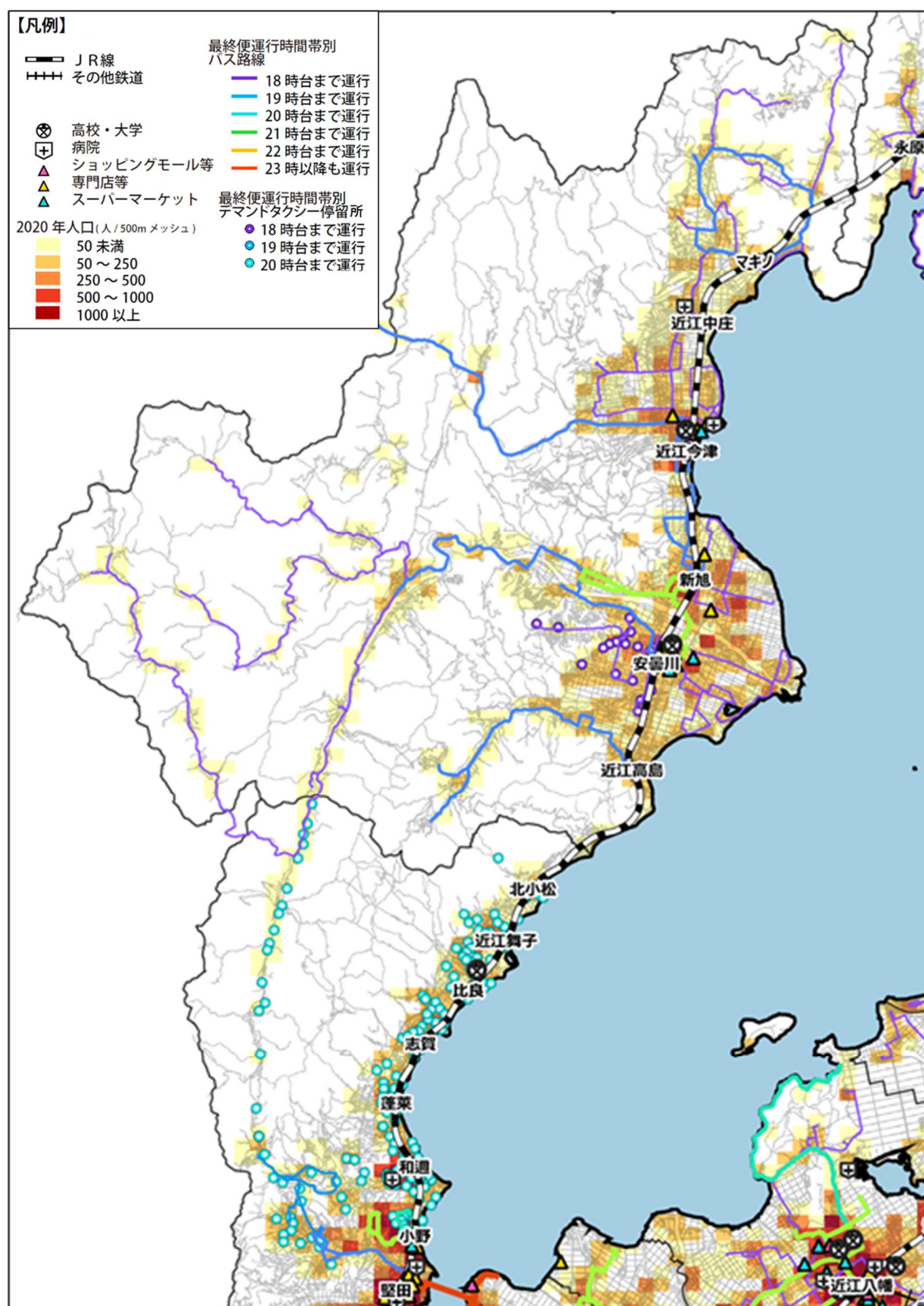


図 2.83 湖西地域における夜間の地域交通運行状況

(1) 分野ごとに見る交通の状況

a) 病院

i) 高島市民病院

高島市民病院は近江高島駅と高島安曇川線等※の各バス路線で接続しています。高島安曇川線等が存在することで、高島市の人口における 73%が 60 分以内にアクセス可能な状況です（図 2.84）。

※高島安曇川線、畑線、武曽・横山線、鶴川線

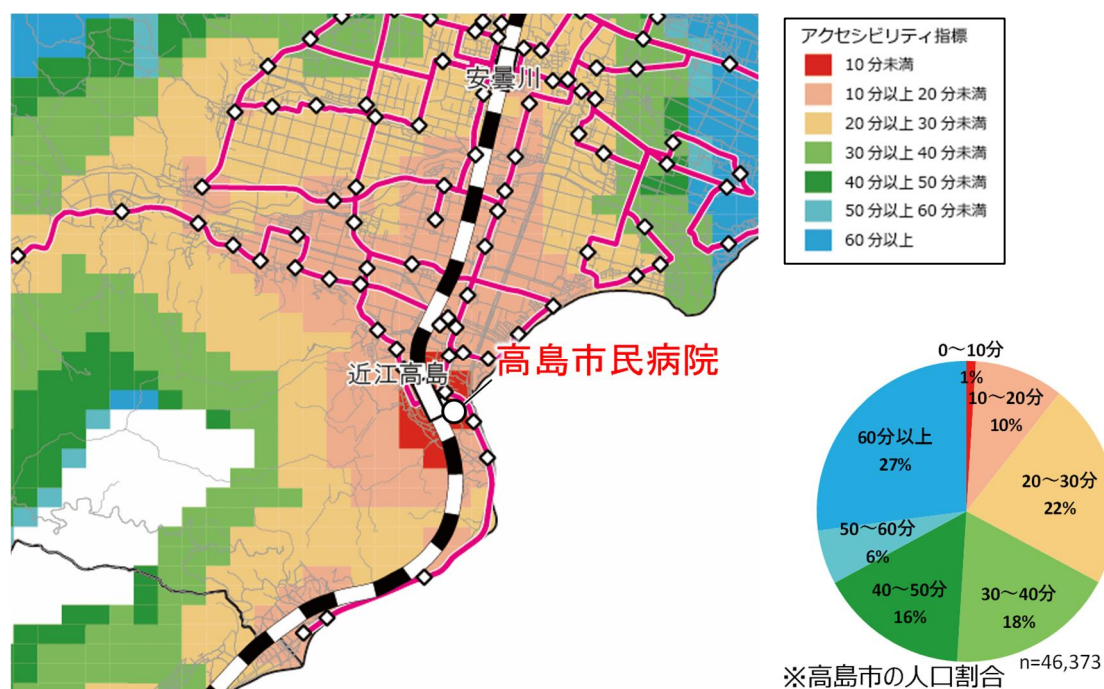


図 2.84 高島市民病院へのアクセシビリティ

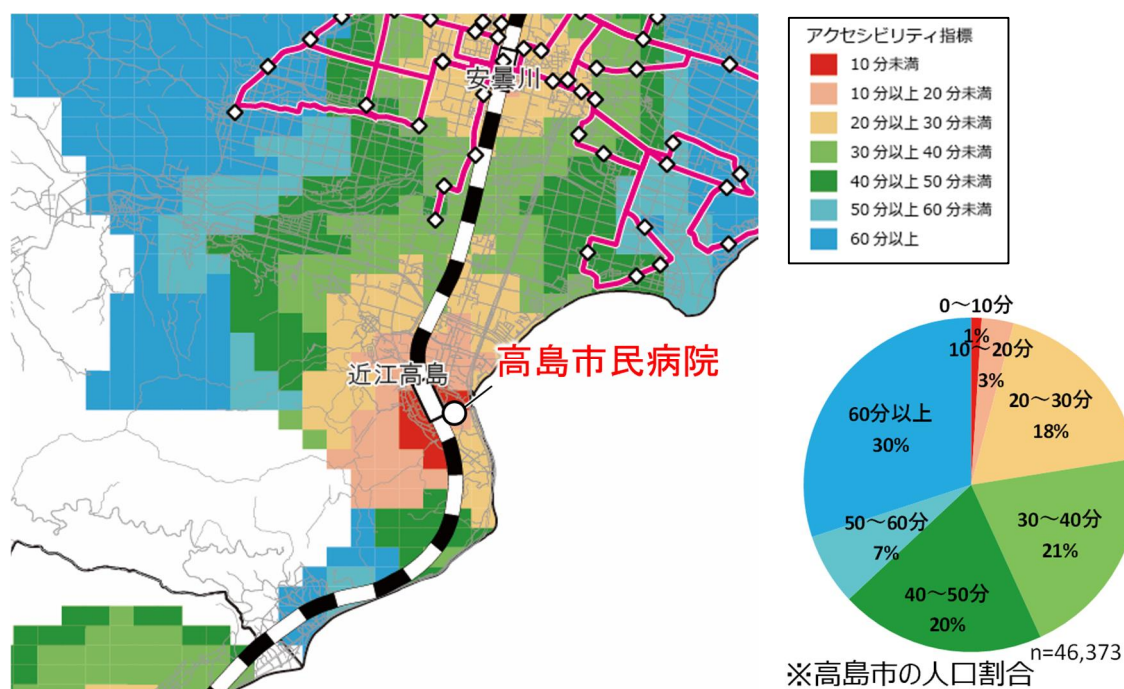


図 2.85 高島安曇川線等が利用できない場合における高島市民病院へのアクセシビリティ

ii) 大津赤十字志賀病院

大津赤十字志賀病院は和邇駅とバスの和辻栗原線によって接続しています。和辻栗原線が存在することで、大津市北部の人口における 41%が 30 分以内に、91%が 60 分以内にアクセス可能な状況です（図 2.86）。

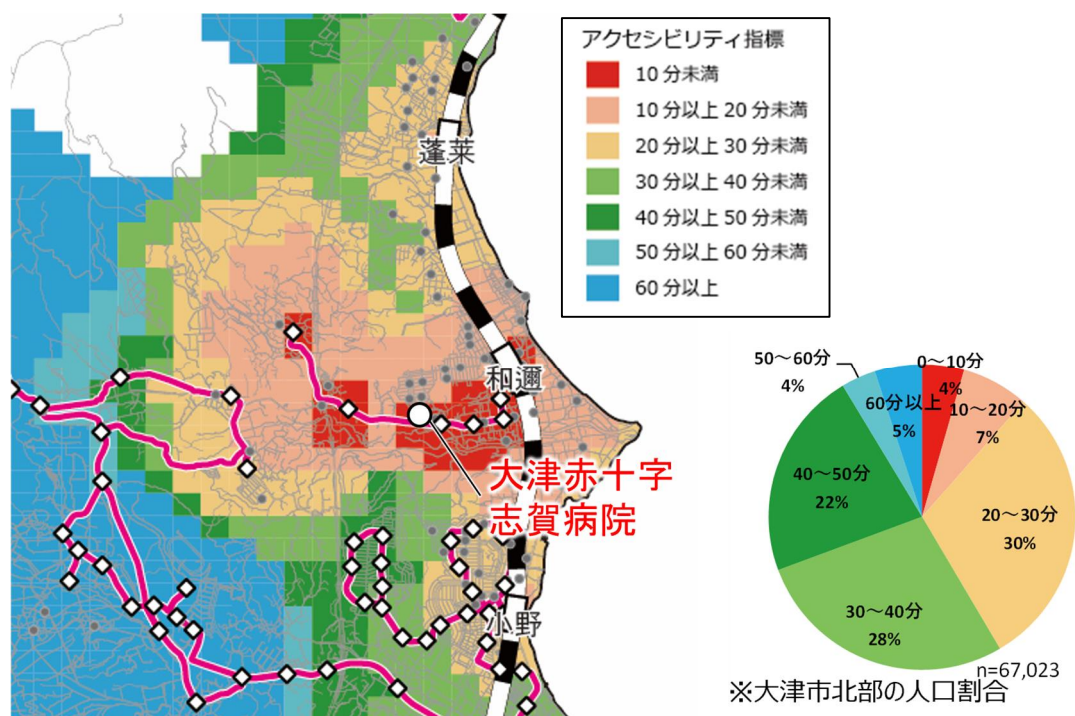


図 2.86 大津赤十字志賀病院へのアクセシビリティ

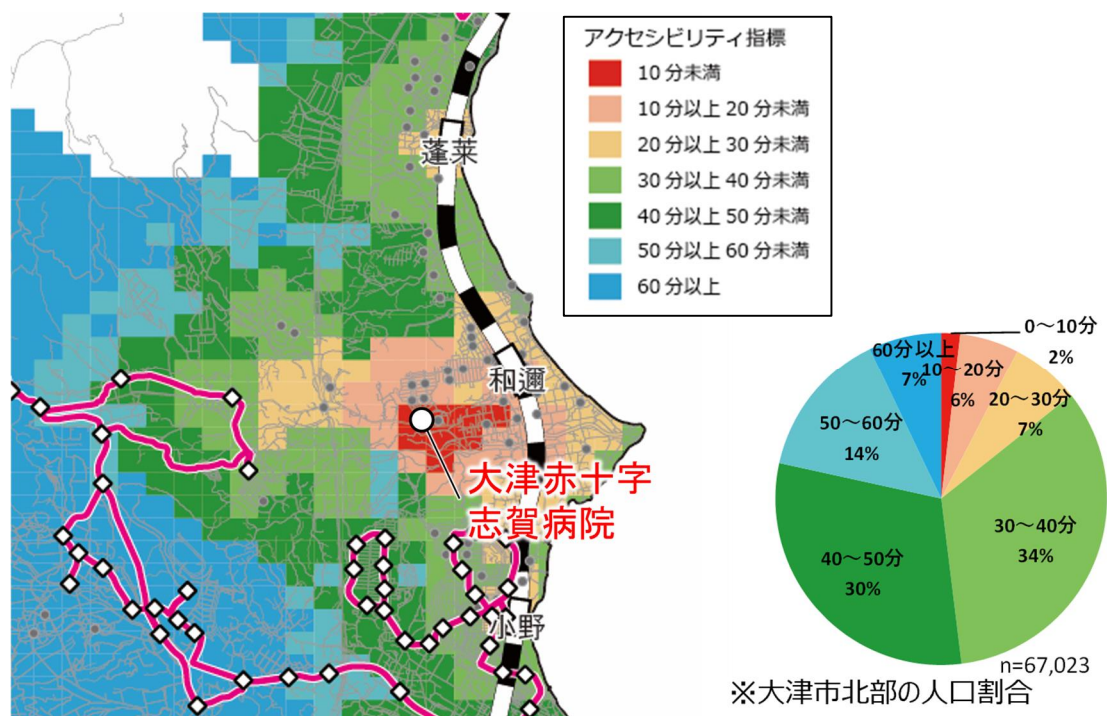


図 2.87 和辻栗原線が利用できない場合における大津赤十字志賀病院へのアクセシビリティ

b) 高等学校

i) 安曇川高校

安曇川高校は安曇川駅とバスの安曇川中央循環線等※で接続しているほか、安曇川駅を発着する各バス路線も利用可能です。各バス路線が存在することで、高島市の人口における74%が60分以内にアクセス可能な状況です（図 2.88）。

※安曇川中央循環線、船木線、新旭南循環線、新旭・安曇川線

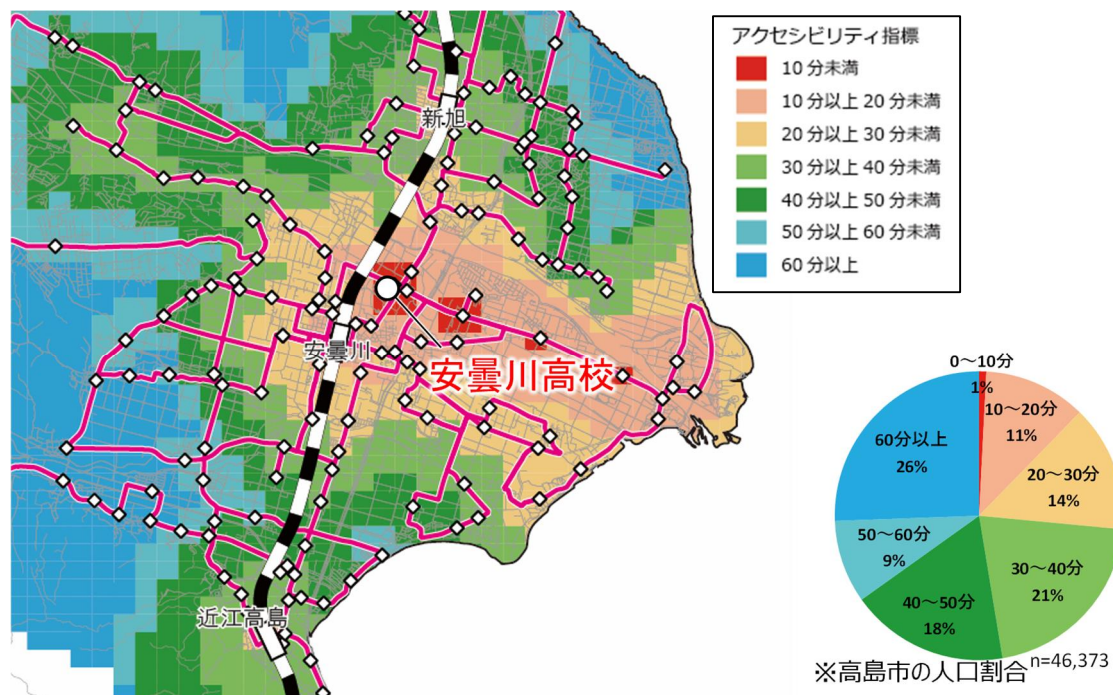


図 2.88 安曇川高校へのアクセシビリティ

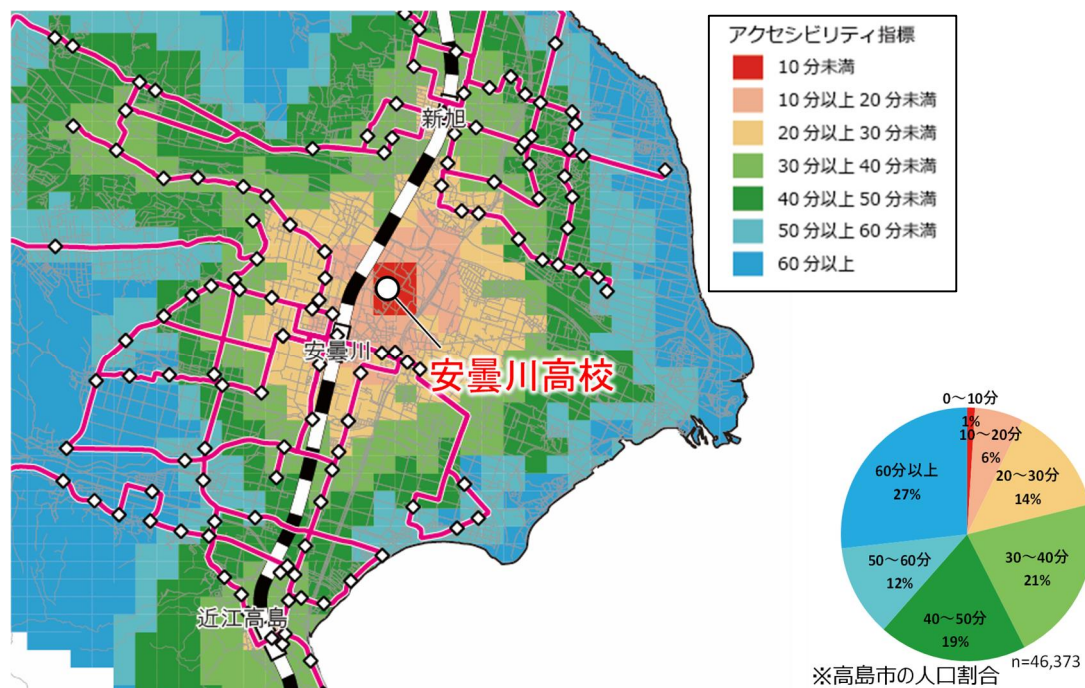


図 2.89 安曇川中央循環線等が利用できない場合における安曇川高校へのアクセシビリティ